

平成 23 年度第 1 回陸上掘削部会執行部会

日時:2011 年 6 月 17 日(金)14:00~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:佐藤比呂志(部会長/東京大学地震研究所) 井龍康文(部会長補佐/名古屋大学)
小村健太郎(防災科学技術研究所) 高嶋礼詩(東北大学) 中田節也(東京大学地震研究所)
長沼 毅(広島大学) 廣野哲朗(大阪大学) 町山栄章(海洋研究開発機構)

MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所) 山元孝広(産業技術総合研究所)

オブザーバー:伊藤久男(海洋研究開発機構地球深部探査センター)

福富 淳(海洋研究開発機構事業推進部国際課)

事務局:菊田宏之 梅津慶太(海洋研究開発機構地球深部探査センター)

欠席者:

岩森 光(SAG 委員/東京工業大学) 浦辺徹郎(東京大学) 小笠原 宏(立命館大学)

功刀 卓(防災科学技術研究所) 小泉尚嗣(産業技術総合研究所) 山田泰広(京都大学)

議事次第(案)

1. 前回(110329)議事録確認【事務局】.....資料 1
審議事項
2. 今年度予算の執行【佐藤、井龍】.....資料 2
3. 陸上掘削特集号・WS【井龍】.....資料 3
4. ICDP の現状と今後について【事務局】.....資料 4
報告事項
5. 予算要求について【佐藤、事務局】
6. SAG、EC 会議【Mori】.....資料 5、6
7. ICDP review 会議.....資料 7
8. プロポーザル等進捗状況【各担当者】.....資料 8-1~8-5
(GONAF、COREF、Alpine Fault、Rapid Response Drilling、阿蘇、Dead Sea)
9. J-DESC 関連【井龍、山元、事務局】.....資料 9-1~9-4
(総会、コアスクール、会員提案型活動経費)
10. IODP における東北地方太平洋沖地震断層緊急掘削【Mori、事務局】.....資料 10

配布資料

- | | |
|---------------------------------|--|
| 資料 1 前回会議(110329)議事録(案) | 資料 8-3 アルパイン断層の掘削計画(DFDP) |
| 資料 2 J-DESC 予算執行率(2003~2010 年度) | 資料 8-4 Further news after caldera drilling application |
| 資料 3 月刊地球特集号 陸上掘削科学の新展開 | 資料 8-5 Deep Drilling at the Dead Sea(SD No. 11 より) |
| 資料 4 ICDP の現状と今後について | 資料 9-1 総会議事録(案) |
| 資料 5 SAG 会議報告書 | 資料 9-2 2011 年度陸上掘削部会活動方針 |
| 資料 6 EC 会議報告書 | 資料 9-3 2011 年度 J-DESC 予算 |
| 資料 7 ICDP review 会議報告 | 資料 9-4 会員提案型活動経費申請一覧(6/17 時点) |
| 資料 8-1 GONAF 報告 | 資料 10 東北沖地震断層緊急掘削 DPG 会議の概要 |
| 資料 8-2 COREF パンフレット | |

議事録(案)

1. 前回(110329)議事録確認

会議終了までに特に異論はなく原案のまま承認。

審議事項

2. 今年度予算の執行

資料2に基づき事務局、佐藤部会長、井龍部会長補佐より説明がなされた。

- ・IODP 部会の川幡部会長から、J-DESC の予算の執行率が低いことについて指摘があり、10 万円の会費を下げることを検討しているとの申し出があった。
- ・陸上掘削部会としては、会員サービスを向上させたいとの返答を行っている。
- ・J-DESC 年会費を、関係者の母体数に応じて金額に段階をつけるというのは一つのアイデアとしてありかも知れない。
- ・年会費を変更するとすれば、今年中に案を作り、来年度の総会で承認することになる。
- ・会費の使い道として、コアスクール講師への謝金があり、これは今年の3月にIODP部会に対して提言を行っている(IODP部会ではまだ検討は行っていない)。
- ・陸上掘削部会所掌の岩石コア記載技術コースに限って言えば、J-DESC からの共催申請に基づき、講師陣は産総研の業務として実施しているため謝金は必要ない。しかし、コアの出し入れについては人手が必要であり、アルバイト代として予算に組み込んである。

合意事項(110617-01):コアスクールの謝金については、現時点では結論を出さず、岩石コア記載技術コースが終了した後で問題点を洗い出すとともに、IODP 部会での議論結果を待つこととする。

3. 陸上掘削特集号・WS

井龍部会長補佐より資料3に基づき、標記の件について説明がなされた。

- ・陸上掘削の今後をまとめた論文集を制作する方向で進めている。
- ・月刊地球の特集号「陸上掘削科学の新展開」として刊行を予定。
- ・今後もう少し内容を詰める必要がある。10 に生物(執筆:長沼委員)を加える。
- ・特集号を刊行した後でワークショップを開催する順番を考えている。
- ・8、9月くらいまでに刊行する。
- ・対象を明確にする必要がある。
- ・すべての分野をカバーするのではなく、陸上掘削としてプッシュしたい分野を選んで掲載するという案もある。

合意・実行事項(110617-02):地学雑誌または月刊地球に陸上掘削科学の特集号を作成する。地学雑誌の掲載について笠原氏に相談する(実行者:井龍部会長補佐)。

4. ICDP の現状と今後について

事務局より資料4に基づき、標記の件について説明がなされた。

- ・JAMSTEC への運営費交付金が減額されている中で70万ドルを拠出するのは難しい。
- ・70万ドルの貢献でAOG、EC、SAGの議長を出すことができる。そのほか、20万ドル、5万ドルの категорияが設けられている。
- ・昨年度35万ドルの貢献額だったのは、モラトリアム期間としての措置であり、ステータスは70万ドルのメンバーと変わらないものであった(ただし、明確な文書の取り交わしがあったわけではない)。
- ・JAMSTEC と ICDP-GFZ との覚書が今年10月に更新時期を迎える。これに関連してICDPを推進するコミュニティからの声を聞かせてほしい。
- ・日本人がプロポーネントになっていないプロジェクトに参加することもICDPに加盟していないことには叶わ

ない。そのため、最低でも参画している状態を続けてほしい。

- ・サイエンスにとっては陸上掘削と深海掘削に隔たりはない。陸上掘削科学に価値がないと考えるのであれば深海掘削科学に価値がないと言っているのと同じ。
- ・外部からの必要性だけでなく、ICDPがJAMSTECにとっても重要なプロジェクトであることを認識しているということも確認してほしい。

合意・実行項目(110617-03):6/23の小川委員会に向けて陸上掘削部会執行部の意見を取りまとめ、後日執行部にメールにて確認する(実行者:佐藤部会長)。

- ・報告事項
- ・予算要求について【佐藤、事務局】

事務局より経緯と現状の説明がなされた。内容省略。

合意・実行項目(110617-04):適任者を臨時執行部委員として増員し、来年1月のICDPワークショッププロポーザル提出を検討する。

5. SAG、EC 会議

Mori 委員より資料 5 に基づき、SAG 会議の報告がなされた。内容省略。

EC 会議報告は資料 6 の通り。内容省略。

6. ICDP review 会議

佐藤部会長より資料 7 に基づき、標記の件について説明がなされた。

- ・ICDP の 5 年間の活動をレビューする会議が開催された。日本側の委員として嶋本氏が出席。
- ・嶋本氏からの報告書(資料 7)には事実とは異なる表記があるため、本人に確認する必要がある。

7. プロポーザル等進捗状況

(GONAF、COREF、Alpine Fault、Rapid Response Drilling、阿蘇、Dead Sea)

・GONAF

伊藤オブザーバーより資料 8-1 に基づき説明がなされた。

- ・ドイツの GFZ Journal に話題が掲載された(Abstract のみ英語で本文はドイツ語)。
- ・間もなく掘削が開始されるかもしれない(PI がトルコで調整を行っている)。

・COREF

井龍部会長補佐より資料 8-2 に基づき説明がなされた。

- ・掘削資金獲得に向けて宣伝活動を活発化すると同時に、掘削の準備も着々と進めている。
- ・資料 8-2 とパンフレットは別もの。

・Alpine Fault

佐藤部会長および廣野委員より資料 8-3 に基づき説明がなされた。

- ・2011 年初頭に 150m の断層掘削を 2 サイトで実施。
- ・来年または再来年に 1.5km の断層掘削を計画しており、ICDP に提案中。マッチングファンドは準備済み。
- ・さらにその後の長期プランとして、4km の掘削を目指す。

・Rapid Response Drilling

Mori 委員より説明がなされた。

- ・Rapid Response Drilling だけではなく、GONAF や Alpine など断層掘削に関するワークショップを震災前に企画していたが、他のプロジェクトとの兼ね合いでペンディングとなった。

- ・日本語パンフレットについては、無理がなければ今年度予算で印刷を進める。

・阿蘇火山

中田委員より資料 8-4 に基づき説明がなされた。

- ・今年度のプロポーザル提出は断念。

・Dead Sea

井龍部会長補佐より資料 8-5 に基づき説明がなされた。

- ・Halite 掘削に水を使用したため、溶けて回収できない層準があったとのこと。
- ・支援が要請されているが、執行部としては J-DESC に入会することを条件とする。

8. J-DESC 関連

(総会、コアスクール、会員提案型活動経費)

・総会

井龍部会長補佐より資料 9-1～9-3 に基づき説明がなされた。

- ・4月16日に総会が開催され、今年度予算が承認された。
- ・詳細な内容については総会議事録(資料 9-1)を参照のこと。

・コアスクール

山元委員より下記の通り報告がなされた。

- ・岩石コア記載技術コースは8月22日(月)～24日(水)に実施予定。
- ・岩石コア記載技術コースの後は3月に構造地質コースを企画している。
- ・構造地質コースを開催することによる予算オーバーは特に問題にならないとの認識。

・会員提案型活動経費

事務局より資料 9-4 に基づき標記について報告がなされた。

- ・今年度4件の申請があり、審査の結果4件とも採択されている。
- ・今年度のこの経費の全体予算は120万円。そのうち、85万円分を採択している。
- ・随時募集のため、今後も申請がある見込み。

9. IODP における東北地方太平洋沖地震断層緊急掘削

標記の件について Mori 委員より説明がなされた。

- ・DPG の共同議長は日本側から Jim Mori さんと小平さん。
- ・ICDP での Rapid Response Drilling がベースになっている。
- ・DPG での検討結果としては、断層まで掘削できれば実施するべき、そうでなければ実施すべきでないという結論となった。
- ・プロポーネントチームに入りたい人は連絡をしてほしい。
- ・プロポーザルが作成された後に、SPC にてレビューされる予定。

10. その他

10月頃に開催。メールで調整する。